## 1 作 物

1 作	物						
項	目	作業内容					
		<ul><li>(今月の作業管理のポイント)</li><li>○麦の栽培管理</li><li>○水稲の育苗準備</li></ul>					
(1)麦の栽培 管理		1か月予報(1月18日高松地方気象台発表)では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並の見込みである。ア 土入れ、麦踏み この時期の土入れと麦踏みは、無効分げつの抑制や倒伏防止などの効果がある。11月上旬~中旬には種したほ場では2月中旬頃に茎立ち期となるので、それまでに土入れや麦踏みを完了する。 土入れは、跳ね上げロータ付き管理機等を用いて土を跳ね上げる(写真1)。排水溝の補修効果による湿害防止対策にも					
		なるため積極的に実施する。 麦踏みは、鎮圧ローラ等で行う(写真2)。ただし、土壌が 湿った状態で踏むと、土が固くしまり過ぎて、根の生育が不良 となるため土壌の乾燥を待ってから行う。					
		写真 1 土入れ 写真 2 麦踏み					
		イ 雑草防除 気温が上昇すると雑草が繁茂し始めるので、雑草の葉齢が 若いうちに、占有草種に効果のある除草剤を散布する。 複数の草種が発生しているほ場では、一年生広葉雑草とイ ネ科雑草に効果があるハーモニー剤が比較的有効である。ハ ーモニー75DF 水和剤では、スズメノテッポウは5葉期まで、 カズノコグサは3葉期までが散布適期で、時期を逸しないよ					
		うに散布する。 広葉雑草が発生した時は、広葉雑草が2~4葉期で麦類の 収穫45日前までにエコパートフロアブルを散布する。 ウ 穂肥、追肥 出穂期は、11月上旬播きのハルヒメボシ、チクゴイズミで は3月下旬、シロガネコムギでは3月中旬~下旬である(表 1)。					

項目			作	業	内	容		
	この場合、穂肥の施用時期は、出穂前30日の2月中旬~下旬頃となる。11月中旬以降のは種では、いずれの品種も出穂が4月上旬以降であり、穂肥は3月に入ってから行う。出穂前30日の幼穂長は5mm程度であり、幼穂長を目安に判断することができる。出穂時期は今後の気温が低く推移すると、出穂時期が予測よりも遅くなる場合があるため、今後の気象動向や幼穂長を参考に穂肥施用時期を決定する。 穂肥量は、NK化成で10a当たり窒素成分3kgを基準とするが、中間追肥量や生育状況及び葉色により加減する。 なお、12月は種のほ場では、中間追肥として2月中旬までに窒素成分で10a当たり2kgを追肥する。土入れ作業と併用すると効果的である。							
	表1 麦の穂肥時期予測(1月22日予測、松山)							
	播種期	出穂期	<ul><li>ニメボシ</li><li>穂肥時期</li><li>(-30 日)</li></ul>	出穂期	ゴイズミ 穂肥時期 (-30 日)	出穂期	ネコムギ 穂肥時期 (-30 日)	
	11/1	3/26	2/25	3/18	2/17	3/13	2/12	
	11/10	3/29	2/28	3/30	2/29	3/26	2/25	
	11/20	4/3	3/4	4/4	3/5	4/3	3/4	
	12/1	4/7	3/8	4/9	3/10	4/8	3/9	
	12/10	4/9	3/10	4/12	3/15	4/12	3/13	
	注)ハルヒメボシの出穂予測日は出穂予測プログラム(農林水産研究所) により算出。チクゴイズミ、シロガネコムギの出穂予測日は麦の発育ステージ予測(西日本農業研究センター)を参照。							
(2)水稲の育	ア用コ	Ŀ						
苗準備	水稲の育苗では育苗用土の pH 調整が重要である。育苗時の							
	トラブルは用土に起因することが多いため、次の点に注意し							
	トラン	ブルは用	土に起因す	「ること	か多いた&	J, 100 V J II	れに任息し	
	ながら	う準備を	行う。				<del></del>	
	ながら用力	っ準備を 上は無病	行う。 で、通気性	や肥料丼	寺ちが良く	pHの低い	・壌土や砂	
	ながら 用 d 壌土が	っ準備を 上は無病 バ望まし	行う。 で、通気性 いことから	や肥料持	寺ちが良く や粒状培土	pH の低V を用いる	・壌土や砂。	
	ながら 用力 <b>壌土</b> が 用力	っ準備を 上は無病 が望まし 上量の目	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a  \text{ \ \text{ \t	:や肥料打 い、山土 <sup>-</sup> 当たりの	寺ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1	pH の低い を用いる 8 枚とす	・壌土や砂。 ると、山土	
	ながら 用力 壌土が 用力 は床力	ら準備を 上は無病 が望まし 上量の目 上と覆土	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a st で 70~90	や肥料持 、山土 当たりの Q、粒状均	寺ちが良く や粒状培土 苗箱数を 1 音土は 40~	pH の低いを用いる 8 枚とす ~45 kg 程	v壌土や砂 。 ると、山土 度となる。	
	ながら 用 類 生 用 は 床 は 好 近 な に が が の が り に り に り り り り り り り り り り り り り り り	っ準備を とは は望ま と 量の 日と で と り は は は は は は は は ま り り り り り り り り り り	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a st で 70~90 4.5~5.5 で	や肥料持 、山土 当たりの Q、粒状均 ご、pH が	寺ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1 音土は 40〜 高いと苗ゴ	pH の低い を用いる 8 枚とす ~45 kg 程 Z枯病の彡	、 壌土や砂 。 ると、山土 度となる。 み発要因と	
	な 第 第 末 日 は よ る な る た る た る た る た る た る た る た る た る た	が 世 は 望 量 と の 現 は し と の の の の の の の の の の の の の	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a st で 70~90 4.5~5.5 で 黄華等で矯	や肥料持 、山土 当たりの Q、粒状 ご、pH が 記する。	持ちが良く や粒状培土 苗箱数を 1 音土は 40~ 高いと苗ゴ 100 kgの	pH の低い を用いる 8 枚とす ~45 kg 程 Z枯病の彡 土の pH る	、 壊土や砂 。 ると、山土 度となる。 多発要因と と1下げる	
	な 東 土 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	を準備を は望量と とと の は 、 は の は 、 は 、 は に は る の は る の は る し る し る 。 し る し る し る し る し る し る し る	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a 章 で 70~90 4.5~5.5 で 黄華等で矯 壌土で 80 g	や肥料 か、山土 当たりの 0、粒状 が、pH が ご、pH が ご、砂壌	寺ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1 音土は 40~ 高いと苗立 100 kgの 土で 60 g で	pH の低い を用いる 8 枚とす -45 kg 程 Z枯病の多 土の pH を	<ul><li>・壌土や砂。</li><li>ると、山土</li><li>皮となる。</li><li>み発要因と</li><li>と1下げる</li><li>高正には約</li></ul>	
	な 第 は は な 硫 1 な 硫 1	を 上述 と は望量と はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a m で 70~90 4.5~5.5 で 黄華等で矯 壌土で 80 g るため早め	や肥料 か、山土 り、 り、 が が で、 か が で い で い で い が が で い が が が が が で が が が で が で	持ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1 音土は 40~ 高いと苗立 100 kgの 土で 60 gで	pH の低い を用いる 8 枚とす -45 kg 程 Z枯病の多 土の pH を	<ul><li>・壌土や砂。</li><li>ると、山土</li><li>皮となる。</li><li>み発要因と</li><li>と1下げる</li><li>高正には約</li></ul>	
	な 壊 は な 成 は な 就 れ は る ま が 用 土 用 た 好 る 黄 か 場 に も に も に も に も に も に も に も に も に も に に も に も に も に も に に も に も に も に も に に に に に に に に に に に に に	を 上述 と は望量と はい はい はい はい はい はい はい はい はい はい	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a 章 で 70~90 4.5~5.5 で 黄華等で矯 壌土で 80 g	や肥料 か、山土 り、 り、 が が で、 か が で い で い で い が が で い が が が が が で が が が で が で	持ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1 音土は 40~ 高いと苗立 100 kgの 土で 60 gで	pH の低い を用いる 8 枚とす -45 kg 程 Z枯病の多 土の pH を	<ul><li>・壌土や砂。</li><li>ると、山土</li><li>皮となる。</li><li>み発要因と</li><li>と1下げる</li><li>高正には約</li></ul>	
	な 壊 は な 成 1 る は な 就 1 る は な 就 1 る ま れ に な が 月 も に も は も に も に も に も に も に も に も に に も に も に に に に に に に に に に に に に	っとが上上適と善月合子準は望量と pH めのをは更に無まの覆は、量要も新を病し目土。硫はすみ	行う。 で、通気性 いことから 安は 10 a m で 70~90 4.5~5.5 で 黄華等で矯 壌土で 80 g るため早め	や肥料された。 と、かいではいまでは、 は、かいでは、 は、ないでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	持ちが良く や粒状培士 苗箱数を 1 音土は 40~ 高いと苗ゴ 100 kgの 土で 60 g で しておく。 する。	pH の低い を用いる 8 枚とす 45 kg 程 工枯病の pH を ご、pH の知 なお、pE	・ 壌土や砂 。 ると、山土 度発 要 子 下 に は す と が 低 と ま と ま と り と り と り に り に り に り に り に り に り に り	

下を招くため、3年に1度は必ず種子を更新する。